

高知市地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時：平成21年9月10日14：00～16：10

場 所：高知市たかじょう庁舎6階大会議室

1. 議 事

(1) 全体スケジュール等について

- ・産業振興計画フォローアップ体制
- ・地域アクションプラン取組追加フロー
- ・産業振興計画の今後の進め方

(2) 地域アクションプランについて

1) H21年度の取り組みの進捗状況について

- ・地域アクションプランの上半期の実施状況
総評及び各分野ごとに主なものを説明
- ・補助金及びアドバイザーの導入状況
- ・地域アクションプランへの追加・修正項目 → 無
- ・今後の重点的な取り組み

【意見交換】

- ・龍馬のまち歩きコースでは、発信の方向をきちっと一元化し密度の濃い方法と対策をとることが大事である。リーフレットの配布も、現在の情報基地以外にホテルや飲食店など来高客に手が届くような方法を検討してほしい。コースも80分から120分あるので、途中でどこかで休息することもあるかと思うがその位置付けも大切である。
- 長いコースについては、商店街に働きかけをしてお接待スポットのようなものを設けることはできないか検討している。
- ・ナンバー1の食材を使って名物料理を作るという取り組みについて、B級グルメという意味合いはどのように解釈したらよいのかピンとこない。
- 麺類か丼物というのがB級グルメ。最近ご当地のB級グルメが全国的に流行り出しているので、そこにかけてB級グルメとした。
- ・工業分野の取り組みについて説明してほしい。
- No.18「こうち販路拡大チャレンジ事業の充実」については県地産地消・外商課と高知市産業政策課が合同で実施している。東京ビッグサイトで行われる、スーパーマーケットトレードショー等の商談会などに県産品を出して高知をPRする取り組み。
- No.19「土佐のものづくり企業による地産外商の推進」については、高知市が県外で年間5ヶ所商談会を開催するのに県もその計画をサポートするもの。この他にツールもあるので取り組んでいきたい。
- No.20「工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化」については、機械も県外企業から導入することも多く、ものづくりの地産地消にはまだまだ遠い。県内企業でどんなものが作られているか、県内の製造業でどんなものが作られているかをお互いに把握することが大事であり、県がポータルサイトを作り、市とリンクさせた産業政策情報の一元化に取り組む。

- ・展示会で県外の食品メーカーからゆずについて高知県だけでは賄いきれないので、他県と合わせて調達すると聞いた。当方ではものづくりはできるが、ゆずの説明やゆず果汁の相場の話とか、高知にどれ位のものがあって、その在庫、全国供給の可能な量がどこまであるかという話までなかなか把握できていない。
高知県でもお互いの情報を我々が聞いたら生産者に知らせるなど、情報共有化が大切になっている。
- ・フードクスジャパンやスーパーマーケットトレードショーなど展示会も行われているが、ビジネスとして捉えたら、スーパーマーケットトレードショーがビジネスとしての成功率は高く、今度のトレードショーは非常に期待が持てる。
- ・高知県はチームを組んでやるのが苦手なので、情報の共有化や異業種間でチームをつくるシステム作りが大切である。
- ・「民有林における間伐の推進」は、今回の報告によると計画が遅れているとのことで戸惑っている。民有林版協働の森の締結が年度内には見通しがつくものと思って現在取り組んでいるが、無駄にはならないか。内容について教えてほしい。
- 昨年度に引き続いて民有林版の検討委員会を立ち上げ詰めていきたいが、まだ会が立ちあがっていない。森の工場とリンクさせながら今年中には実施したい。
- ・ゆずの搾汁施設ができてお礼申し上げますと共に、生産農家にとってはプレッシャーになってきている。これから生産者も高齢化してくるので、今後の生産や手入れの仕方など指導してほしい。
- ゆずは大手の食品加工メーカーを含め非常に引き合いが強く、土佐山を中心に作付面積を増やしているが、県全体にゆず農家の方々がご高齢になりつつあるので、収穫時期は家族総出で手伝っている。上手くシステム化していかなければ、せつかくのゆずが何年か後には収穫できないということも想定される。
- ・取替型木柵漁礁の設置は、本格的にやるならば物部川から仁淀川の沖合といった幅広い設置をしなければ、年間を通じた効果が出ないのではないか。
- ・県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進では、漁協が積極的に量販店から県外出荷をしていき、漁協がバックアップして魚価の向上に努めなければならない。
- ・底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大では、漁協と加工業者が連携して販路拡大、魚価の向上を進めていきたい。
今年は産業振興計画の影響か魚価も上がってきている。
- ・冷凍ドロメの販路拡大では、量の確保が問題で生産は伸びていない。しらす、かたくちイワシの子に選定しており少ない生産となっている。
冷凍ドロメもB級品を汁用、釜揚げ丼用で検討しており何とか生産の拡大に努めていきたい。
- 陸上での作業にあたる専門の方の確保が課題。春野町の7カ所のバッチ網漁業者の組織づくりができています。
- ・合併前の春野においても、竹のバイオマスはなかなか進んでいない状況であったが現状はどうなっているか。
- 旧春野町のときからの事業計画について企業で検討していただき、7月末にバイオマスタウン構想が認可となった。
また、竹から作ったスプレー系の消毒剤が新型インフルエンザに非常に効果があるということで、大学医学部でも証明がでている。これをビジネスとしていろんな産業と繋げていきたい。

- ・ No.8「稲ホールクロックサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活」については、内閣が替わり国の助成はこれから厳しくなってくるのではないかと。
- 耕畜連携の機械導入については、業者が決定して機械の受け入れ準備中。
- ・ よさこいの映画については、高知のよさこいを守ってもらうようにしてほしい。現在は映画を作ることに支援をいただいているが、これはめったにない機会であるし広告効果も通常に換算したら何億というメリットがある。観光産業だけでなく他の産業にも波及していくようにしなければならない。
- 文化と一緒に商品売り込むことは非常に重要である。パッケージで売ることが大切である。

(3) 産業成長戦略について

1) H21年度の取り組みの進捗状況について

- ・ 産業振興計画の取組状況について
 - 地域産業振興アドバイザーの地域本部への駐在
 - 産業振興計画の取り組みを広く県民に紹介する
 - フェスティバル土佐ふるさとまつり
 - 総合補助金採択状況
- ・ 高知県地産外商公社について